

# 令和3年6月 気仙沼商工会議所 景気動向調査 概要版

(令和3年度第1四半期：令和3年4月～6月期実績、令和3年7月～9月予測)

製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業・水産加工業に属する会員の中からそれぞれ6業種より20事業所ずつ合計120件を対象とし、うち107事業所(回答率89.2%)より回答。

調査項目は、①業況(自社)②売上額(建設業は完成工事(請負工事)額)③採算(経常利益)④資金繰り⑤従業員(含 臨時・パート)⑥経営上の問題点について調査を行った。

☆分析方法…【DIとは「増加(上昇、好転)」と答えた企業割合から「減少(低下、悪化)」と答えた企業割合を差し引いた値です。DIは0を基準としてプラスの値は景況が上向き傾向の企業割合が多いことを示し、マイナスの値は景況が下向き傾向の企業割合が多いことを示します。

〈前回値と比べ「好転」・「不変」・「悪化」で表示〉

	業況DI			売上額DI			採算DI		
	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通
	4月～6月	昨年4月-6月と比較	7月～9月予測	4月～6月	昨年4月-6月と比較	7月～9月予測	4月～6月	昨年4月-6月と比較	7月～9月予測
全業種値	▲49.5 ↘	▲18.7 ↗	▲14.3 ↗	▲47.2 ↗	▲20.6 ↗	▲12.4 ↗	▲27.4 ↘	▲20.8 ↗	▲15.2 ↗
①製造業	▲22.2 ↗	±0.0 ↗	▲5.6 ↘	▲27.8 ↗	▲5.6 ↗	±0.0 ↘	▲11.8 ↘	11.8 ↗	±0.0 →
②建設業	▲35.0 ↘	▲55.0 ↘	▲52.6 ↘	▲35.0 ↘	▲55.0 ↘	▲42.1 ↗	▲5.0 ↘	▲40.0 ↘	▲40.0 ↗
③卸売業	▲72.2 ↘	▲27.8 ↗	±0.0 ↗	▲72.2 ↘	▲27.8 ↗	▲17.6 ↗	▲44.4 ↘	▲27.8 ↗	▲23.5 ↗
④小売業	▲78.9 ↘	▲31.6 ↗	▲5.3 ↗	▲78.9 ↘	▲36.8 ↗	▲10.5 ↗	▲63.2 ↘	▲52.6 ↗	▲15.8 ↗
⑤サービス業	▲64.3 ↗	▲7.1 ↗	▲28.6 ↗	▲64.3 ↗	▲21.4 ↗	▲14.3 ↗	▲35.7 ↗	▲21.4 ↗	▲28.6 ↗
⑥水産加工業	▲27.8 ↗	16.7 ↗	5.6 ↗	▲5.9 ↗	27.8 ↗	11.1 ↗	▲5.6 ↘	11.1 ↗	16.7 ↗

## 【業況判断(業況DI)】

○当期の水準は、全業種値▲49.5、前年同期比では▲18.7と厳しい状況となっている。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲14.3と業況の厳しさは続く見通しとなっており、業種別で見ると前年同期比の予測では「水産加工業」DI値は5.6、「卸売業」は±0.0となり、他4業種は「悪化」を予測。

## 【売上額DI】

○当期の水準は、全業種値▲47.2、前年同期比は、全業種値▲20.6となっており、業種別で見ると「水産加工業」で前年同期比DI値27.8のプラスの値を示すものの、他5業種ではマイナスを示した。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲12.4と前期より緩やかながら厳しさが続く見通しと予測。うち業種別にみると、「水産加工業」11.1と増加予測するものの、「製造業」は±0.0を予測し、他4業種で「減少」を予測。特に「建設業」▲42.1、「卸売業」▲17.6、「サービス業」▲14.3と厳しい見通しと予測。

## 【採算DI】

○当期の水準は、全業種値で▲27.4となっており、全業種で赤字の値を示した。うち「小売業」▲63.2、「卸売業」▲44.4、「サービス業」▲35.7と厳しい状態となっている。前年同期比は、全業種値▲20.8となっており、「製造業」DI値は11.8、「水産加工業」11.1とプラスを示すが、他4業種ではマイナスを示した。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲15.2となっており、水産加工業で16.7とプラス、製造業で±0.0を示すものの、他4業種でマイナスを示し厳しさが続く見通しと予測。

## 【資金繰りDI】

○当期の水準は、全業種値で▲16.5となっており、「水産加工業」5.6とプラスを示し、「製造業」・「建設業」では±0.0を示すものの、他3業種でマイナスの値を示した。

前年同期比は、全業種値▲7.4と緩やかなマイナス値となっている。

○次期見通しについては、前年同期比で全業種値▲10.4となっており、うち製造

業では11.1とプラスの値を示したものの他の5業種ではマイナスの値を示し、厳しい見通しと予測。

## 【従業員DI】※従業員DIは、プラス値で過剰、マイナス値で不足を表す。

○当期の水準は、全業種値で▲16.8となっており、「卸売業」5.6で過剰を示し、小売業では±0.0、他4業種は不足を示した。前年同期比では、全業種値で▲11.2となった。

○次期見通しについては、全業種値では前年同期比▲3.8と人員不足を予測しているが、「製造業」では5.6、「小売業」では5.3と過剰を予測し、「卸売業」では±0.0の不変を予測している。

【経営上の問題点について】…問題点は各業種によって異なっているが、上位には「需要の停滞」49件（16.8%）、「原材料価格の高騰」31件（10.7%）、「人件費の増加」28件（9.6%）の順となった。（105事業所 回答291件・重複回答可）

### 〈製造業の主な問題点（回答18事業所）〉

「原材料価格の上昇」11件（61.1%）、「人件費の増加」・「従業員の確保難」・「熟練技術者の確保難」がそれぞれ6件（33.3%）の順であった。

### 〈建設業の主な問題点（回答20事業所）〉

「民間需要の停滞」10件（50.0%）、「官公需要の停滞」9件（45.0%）、「資材・材料単価の上昇」7件（35.0%）、「請負単価の低下・上昇難」6件（30.0%）の順であった。

### 〈卸売業の主な問題点（回答17事業所）〉

「需要の停滞」7件（41.2%）、「販売単価の低下・上昇難」・「仕入れ単価の上昇」がそれぞれ6件（35.3%）、「人件費の増加」・「人件費以外の経費の増加」がそれぞれ5件（29.4%）の順であった。

### 〈小売業の主な問題点（回答19事業所）〉

「需要の停滞」10件（52.6%）、「消費者ニーズの変化への対応」8件（42.1%）、「人件費の増加」6件（31.6%）の順であった。

### 〈サービス業の主な問題点（回答13事業所）〉

「利用者ニーズの変化への対応」・「需要の停滞」がそれぞれ7件（53.8%）、「人件費以外の経費の増加」・「材料等仕入単価の上昇」・「従業員の確保難」がそれぞれ5件（38.5%）の順であった。

### 〈水産加工業の主な問題点（回答18事業所）〉

「原材料価格の上昇」13件（72.2%）、「従業員の確保難」7件（38.9%）、「原材料の不足」6件（33.3%）の順であった。

	資金繰りDI						従業員DI		
	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通
	4月～6月	昨年4月-6月と比較	7月～9月予測	4月～6月	昨年4月-6月と比較	7月～9月予測			
全業種値	▲16.5 ↑	▲7.4 ↑	▲10.4 ↑	▲16.8	▲11.2	▲3.8			
①製造業	±0.0 ↘	22.2 ↑	11.1 ↑	▲22.2	±0.0 ↘	5.6			
②建設業	±0.0 ↑	▲10.0 ↑	▲15.0 ↑	▲30.0	▲25.0	▲10.0			
③卸売業	▲38.9 ↘	▲22.2 ↘	▲17.6 ↑	5.6	▲11.1	±0.0			
④小売業	▲31.6 ↑	▲31.6 ↑	▲10.5 ↘	±0.0 ↘	5.3	5.3			
⑤サービス業	▲28.6 ↑	±0.0 ↑	▲28.6 ↑	▲28.6	▲14.3	▲7.1			
⑥水産加工業	5.6 ↑	▲5.6 ↑	▲5.6 ↑	▲27.8	▲22.2	▲16.7			